

春号

多賀

No.67

令和4年3月1日発行



差符を受ける馬頭人・御使殿

四月から九月の祭事暦

四月

- 神武天皇祭遙拝 四月 三日(日)
- 御使殿大御供式 四月 十日(日)
- 馬頭人大御供式 四月 十八日(月)
- 宵宮祭 四月 二十一日(木)

●古例大祭

四月二十二日(金)

- 後宴祭 四月 二十三日(土)
- 昭和祭 四月 二十九日(金)

五月

- 喜寿筵寿祭 五月 十三日(金)
- 米寿筵寿祭 五月 二十八日(土)

六月

- 御田植祭 六月 五日(日)
- 崇敬会大祭 六月 十九日(日)
- 六月古例祭 六月 三十日(木)
- 夏越大祓式 六月 三十日(木)

七月

- 金婚筵寿祭 七月 二日(土)

八月

- 万灯祭 八月三・四・五日(水・木・金)

九月

- 九月古例祭 九月 九日(金)
- 傘寿筵寿祭 九月 十六日(金)
- 秋季皇霊祭遙拝 九月 二十三日(金)
- 拔穂祭 九月 二十五日(日)
- 池坊献華式 九月 二十七日(火)
- 講社大祭 九月 二十八日(水)

諸祭

- 御日供祭 毎日午前七時より
- おついたち参り 元日を除く毎月一日の午前七時より
- 月次祭 元日を除く毎月一日・十五日

※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更が生じる場合があります。



ご挨拶

伝統ある祭りの継承

今年も桜花の季節を迎えようとしています。

お多賀さんでは、年間を通じて大小約五百件以上のお祭りを執行していますが、総じてお祭りは毎年日時が決まっています、恒例の行事として長年同じように繰り返してきた祭祀が多いものです。残念乍ら、昨今のコロナウイルス禍で、最重儀である古例大祭を始め各祭祀について、ご参列のご遠慮や直会を縮小するなど難しい判断をしなければならず、祭祀の執行に諸々配慮し三密を避けつつ苦慮致してきました。

コロナ禍も既に二年を経て、昨年末より県下は元より近隣県にも罹患者が減少し、安堵したのも束の間、第六波ともいえるべき、今年になり罹患者が増加してきました。

この上は、神社の責務である、「先神事」を熟慮し、氏子崇敬者の理解を得て、形態を多少変更しながらも、安心安全を優先し、古くより先人たちが護り伝えてきた祭りの本質を変えることなく将来に繋がるようその継承に鋭意努力を続けていく所存であります。

そもそも、祭りとは、平素の神恩に感謝し、明るく清らかな

宮司 片岡 秀和



真心を以って、真摯な祈りを捧げる事です。豊かな日常と生命の活性化や活力を得る事で日常生活に於ける秩序と調和を維持する事ができるのであり、この事は神社で行う祭祀のみならず、家庭祭祀であつても、その根本的な精神は同じ事が言えるかと思えます。

数年にわたるコロナ禍により社会の情勢は不安定になっていて、恐らく人心も変化しているかもしれません。このコロナ禍が終息した後、何事もなかったように祭祀を以前の姿に戻すことが出来るのか不安さえ感じています。

ただ、先人の祈りに思いを致し、往古より受け継がれてきた伝統ある祭祀を、いかに世の中が変化しようと本質を違えず護り伝えて行くか。今、御社を預かる者に課せられた大切な使命がある事を肝に命じ、思いを新たにしています。悠久の歴史ある祭祀を須く将来に伝えるべく皆様方のご理解と格段のご協力をお願い申し上げる次第であります。

今年こそ完全なるコロナの終息を願い、あるべき姿の祭祀が出来るよう、元の静謐な社会に戻る事をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



古例大祭



馬頭人 にしやま 西山 のりかず 憲和 氏

昭和21年11月10日生（75歳）
 ・住所 彦根市西今町
 ・現職 西山繊維(株) 代表取締役



御使殿 いちえん 一圓 ゆうや 佑也 氏

平成18年7月24日生（15歳）
 ・住所 犬上郡多賀町一円
 ・多賀町立多賀中学校3年

※令和4年3月1日現在

四月二十二日、当社の最重儀である古例大祭が斎行されます。
 本年の馬頭人は西山憲和氏（犬上郡豊郷町地区選出）が御使殿は一圓佑也氏（多賀町一円区選出）がそれぞれ大役をご奉仕されます。
 昨年は新型コロナウイルスの影響により、神輿・鳳輦の巡行を取止め、御霊を柵に御移してお渡りを執り行いましたが、本年は従来の絢爛豪華で賑やかな大行列が多賀町内を練り歩ける事を願います。



去る一月十四日豊年講大世話会において、豊年講員を代表する祈年使に選出され、今年の祈年祭をご奉仕させて頂く事になりました。
 私の住んでおります長浜市の勝町は区画整理事業が行われ、耕作が不能となりました。現在、直接農業に携わっていない私が、このような大役を引き受けて良いものかと戸惑いもありましたが、今は多賀の大神様からのご指名をご縁と思い、三月十七日の当日は六荘北地区の世話係と共に誠心誠意ご奉仕させて頂きたいと思っております。

豊年講春季大祭祈年使を奉仕するにあたり

三月十七日 五穀豊穡を祈る恒例の祈年祭が斎行されます
 県内の豊年講員を代表して本年は長浜市六荘北地区大世話係の中嶋嘉壽夫氏が祈年使をご奉仕されます。

祈年使 なかじま 中嶋 かずお 嘉壽夫



祈年祭（豊年講春季大祭）

多賀の杜と

四十年

第1回

宮大工 西澤 政男

私が多賀大社で初めて仕事をさせて頂いたのは昭和五十七年初春から着手し、同年五月に完成した末社の金咲稲荷神社の修復工事からで、令和三年で丁度四十年が経ちました。折しも、建築以来ずっと素木造りのままであったこの御社殿を、昨年の秋、更に彩色させて頂いて、お稲荷様らしい朱色の装いとなってお目見得できた事、感慨深く思っています。

稲荷神社修復工事の少し前（昭和五十四年）、滋賀県では文化財建造物修理工事が県の直営施工から入札で施工者を決める請負形式に変更されたのを機に、私も県の直庸大工を退職して父の工務店に戻りました。修復工事を行ったのは、その二、三年経過した私が未だ三十代後半の頃でした。

その当時は夢中で考えつきませんでした。後で

考えると、稲荷神社修復工事が採用テストのようなものだったのだと思います。

以来、多賀大社からは、能舞殿半解体修理や、袴腰鐘楼新築など、今日迄に二十数件ものご用命を頂き、四十年間ほぼ連続して多賀の杜に通わせて頂いて居ります。

多賀大社での仕事はまた、私達職人にとりましては格好の修業の場でありまして、毎日、質の高い建築群に囲まれての仕事では、周囲に在る先

達の卓越した造形から多くのことを学び、確認し、感性を磨いて、自身の向上に資すること、多大でありました。

昭和五十八年の能舞殿修理では、鏡の間と橋掛りは全解体、舞台は半解体修理を行いました。また、当時の大口権宮司様に御紹介頂いて、能舞台に詳しい靖国神社の佐久間金佐技師の指導を受けに東京迄出張も致しました。種々の教示の中でも、鏡の間と舞台の間の橋掛りには「撥転びの勾配」を付けることを教わりました。（太鼓を打つ撥の元と先の太さの違いの勾配の様に極僅かな勾配を付けること。転びは傾きを指す。）



金咲稲荷神社（素木造り）



彩色された金咲稲荷神社



能舞殿全体



水平

撥転びの勾配
(能舞殿橋掛り)



旧鏡板



新鏡板

そして、舞台背後の鏡板に「松」の絵を描いて頂いたのは、京都の川面稜一画伯で、後に選定保存技術保持者に選定された方です。

この時も、「松の絵は末永い繁栄を願って漢字の『久』の字をイメージして描くと形が良くなる」と教えて頂きました。

旧来の松絵の鏡板は新鏡板の保護の為に建具仕立として普段は新鏡板の前に仮に建て込み舞台使用時のみとりはずせるようにしました。

次は、昭和五十九年末から六十一年春にかけて「多賀講創設五百年記念事業」の一環として、参集殿の前に袴腰鐘楼を建築させて頂きました。

この鐘楼に吊るされている梵鐘は、神仏習合時代の数少ない遺品の一つで、当時は不動院に備えられていました。明治以降は今の参集殿北の駐車場の辺りに在りましたが、その頃は未だ北側の大道や北入



袴腰鐘楼

る大鐘で重量も相当なものであります。

参拝者にも歴史の一端を目で確認して頂くには格好の物であるところから、神社の古絵図を参照しつつ、室町時代に建設されていたものに近い形で現在の場所に純木造の鐘楼を建設することになりました。

因みに、この工事では相当な重量のある梵鐘を鐘楼新築地まで運ぶのが非常に大変で、途中に在る深く広い川を渡るのに大変な苦勞をした事を覚えていきます。

その後は末社の天満神社、夷神社、御旅所の祖母・楯取神社改築と続き、平成十年には日向神社手水舎修理をさせて頂きました。



祖母・楯取神社

口や駐車場も無く、川の向こうの鬱蒼とした森林の中で四脚の仮設のような朽ち果てた鐘楼に吊られて居りました。この梵鐘は昭和六十一年に県指定文化財にも指定されました。口径が四尺二寸も有

多賀大社 平成の大造営

平成十一年九月中頃、この造営計画についてご相談を頂き、計画を立てる為に先ず、現状の概略の配置平面図を作る事になり、その図を作る為に、調査、計測、作図と半年以上を要しました。平成十二年はその図に基づいて平成大造営の内容を繰り返し検討を重ね、神符授与所や祈禱者待合所、舞女室、便所等は建て替えることになりました。

これを「第一期工事」として実施すること迄決まった段階で平成十三年には第一期工事の実施設計、工事監理を神社から専門の設計業者に依頼されて、愈々この大造営事業は本格的にスタートを切る事となりました。

西澤 政男 (にしざわ まさお)

昭和十九年生まれ

・(株)西澤工務店 代表取締役

・一級建築士・一級技能士(大工)

・ユネスコ「世界無形文化遺産」登録

伝統建築工匠の会 副会長

※この度、多賀大社の社殿に関わる維持・管理をお願いしております、(株)西澤工務店 代表取締役 西澤政男様に社報への寄稿を依頼し、二回にわたりご紹介いたします。

西澤政男様は平成30年の古例大祭で馬頭人をご奉仕頂いております。

節分祭

福は内!
鬼は外!

奉仕者ご芳名(順不同・敬称略)

二月三日、節分祭が斎行されました。
本年はコロナ禍の中、感染対策を講じ神職・還暦奉仕者のみによる祭祀と厄払い神事を執り行いました。
ご奉仕のご縁を以て節分会員になられた一〇七名の皆様をご紹介します。頂きます。

◆愛荘町

丸橋 継一

高橋 健

石部 甚人

◆近江八幡市

川嶋 嘉治

◆大津市

井上 栄一

◆草津市

堤 徳弘

牧野 克美

◆甲賀市

山本 隆司

堀井 洋明

藤橋 正則

藤橋 裕美

杉本 松之

中島 武浩

辻 佳行

富山佳寿人

◆多賀町

田斉 道夫

植野 辰則

石田 年幸

北坂 仁

平居 晋

安田 良介

藤井 庄蔵

◆長浜市

上田 猛

中川 善造

沢井 助治

富永 一義

千田 和夫

林 章浩

金澤 慶司

上田 聡

中尾 元重

中村 繁樹

前川 健悟

秋野 聡

秋野 吉彦

酒井 博史

蓮井 清満

廣瀬登志子

宮元 周吾

草野 嘉則

古川 政博

古田 純一

大依 久人

大久保昌彦

小林 弘士

山田 正美

加納 孝浩

村田 昭彦

清水 正樹

草野 嘉之

宮元 俊広

高木 護

平綱 育男

伏木 衛

青木 甚浩

古山 尚宏

木村 靖雄

木村 桂子

小嵯 敦

岸田 孝史

池野 浩文

國友 陵一

米田 直樹

西河 孝明

平川 潤

野村 義人

下村 秀夫

平谷由利子

森 宏子

浅見 幸則

西村 正和

伊藤 茂人

上林 繁久

奥居 渉

大橋 恭介

大橋三貴子

辻 忠宣

辻 智子

大橋 俊浩

犬田 隆

犬田 博子

中西 潤

阿部 清孝

彦根市

柴谷 浩幸

山本 昭二

藤田 隆行

久木 均

久木加代子

田口 定美

藤本 幸夫

田島 一成

若林 勝利

若林由紀子

鈴木 文彦

若林 伸享

宮嶋誠一郎

吉岡 秀郎

鹿野 豪士

一圓 泰成

音田 直記

清水 一範

日野町

高井晴一郎

安田 尚司

米原市

石河 康久

石河真代子

野洲市

角出 昇

◆御礼

福豆奉納

神崎 治



金咲稲荷神社 鈴・鈴緒・神前幕ご奉納



昨年、御社殿朱塗事業が竣工した金咲稲荷神社に、新たに鈴・鈴緒・神前幕が日野町の中野ミート中野傳氏より奉納されました。

中野氏は、長きに亘り鈴緒と神前幕を定期的に奉納されていましたが、御社殿朱塗事業を記念し今回は鈴も新たに奉納されました。

感染症対策として、鈴振りを休止せざる得ない状況が続いていますが、新しい鈴の音が稲荷の森に響き渡る日を心待ちにしています。

金咲稲荷神社 鳥居ご奉納

金咲稲荷神社をご崇敬の証として鳥居奉納をお受けいたしました。ご篤志に感謝申し上げます、ご紹介させていただきます。

富田林市	NEW MOTORS(株)	福田 安秀様
三重郡 朝日町	(株)葛牧工業	代表取締役 葛巻 錠治様
湖南市	北斗産業(株)	園田 英樹様



高額奉納者

昨年10月21日 当社の崇敬会員である彦根市の茶木利男氏より、真心籠る多額のご浄財を賜りました。ご篤志に感謝申し上げますと共に、末永くお多賀さまのご神徳をお受け下さいますよう、お祈り申し上げます。



年末寒波襲来

昨年末、多賀町は昭和56年の五六豪雪以来の大雪とも言われる、大型寒波に見舞われました。境内も膝上ほどの雪が積もり職員の中には何時間も歩いて出社するなど、お正月を控え大変な状況となりました。何とかお正月を迎える事が出来ました。積雪によりご参拝の皆様には多々ご不便をお掛け致しました事お詫び申し上げます。



「神社ナビた」 ご存じですか？

大鳥居の右側に「神社ナビた」を設置しています。

多賀大社の由来をはじめ、授与品の事や、祈祷の事など多賀大社の事について色々知ることが出来ます。

お参りの際は一度タッチしてみして下さい。



参拝記念にいかがですか

古くからお多賀さん名物として親しまれる「蕨寿おこし」を、境内景観を描いた箱に包み「多賀絵巻 蕨寿おこし」として新たに授与を開始致しました。



固いイメージのおこしです

が、ソフトおこしに変更を施し、老若男女問わずおいしくお召し上がり頂けるよう、改良を加えました。

お多賀さんにおこしの際は、蕨寿おこしをぜひお受け頂き、ご賞味下さい。

初穂料 500円

春の宝物展『調馬廐馬図屏風』

令和四年 五月二日(月)～五日(木)

拝観料 五〇〇円

当社所有の国の重要文化財『調馬廐馬図屏風』が特別公開されます。

この屏風は、江戸時代初期のもので、作者不詳ながら、豪壮で力強い画法から狩野派の然るべき名手の手によるものと見られています。

特に調馬図の茶席の主人が千利休であろうとされている点にも注目してみてください。

蕨寿祭のご案内

金婚	米寿	傘寿	喜寿	古稀	年齢	該当年	祭典日
結婚50年	88歳	80歳	77歳	70歳			
昭和48(もしくは47)年に結婚されたご夫婦	昭和10年生	昭和18年生	昭和21年生	昭和28年生			
7月2日(土)	5月28日(土)	9月16日(金)	5月13日(金)	10月13日(木)			

※事前のご予約が必要です。お電話でお問い合わせ下さい。
新型コロナウイルス感染拡大状況により延期または中止となる場合があります。

崇敬会年会費 納付時のお知らせ

(株)ゆうちょ銀行では、令和4年1月17日より、郵便局での現金納付に対して一律110円の自己負担金が必要となりました。会員の皆様には自己負担金の掛からないコンビニでの会費納付をおすすめ致します。

人事

退職

【出仕】 吉田 皓
【舞女兼事務員】 櫻 夢花
(令和三年十一月三十日付)
(令和三年十二月十五日付)

採用

【技手】 野口 典秀
(令和三年十二月三十日付)

編集後記

新型コロナウイルスへの感染防止対策の一つとして、マスクを着けた日常生活が当たり前となりました。はたして、コロナ終息後はマスクを外して日常生活を送るようになるのでしょうか。

最近、ニューノーマルと言う言葉をよく耳にします。今まで当たり前でなかった事が当たり前になり、当たり前であった事が当たり前でなくなりつつあるように感じます。

信仰形態や伝統文化においてもその風潮が見受けられるように思います。コロナ禍によるニューノーマルが信仰心や伝統文化を護り繋いで行くものとなれば良いのですが、薄れてしまうものとならないよう我々の選択判断が求められている気がします。



多賀大社

〒522-0341 滋賀県犬上郡多賀町多賀 604
tel.0749-48-1101 fax.0749-48-1105
info@tagataisyaya.or.jp

多賀大社



http://www.tagataisyaya.or.jp



@tagataisyaya.official



@tagataisyaya